

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [03021] 唾液中コルチゾール
- [07179] 唾液中sIgA

受託開始日

- 平成30年3月1日(木)



唾液中コルチゾール・唾液中sIgA (secretory IgA)

ストレス下においては、交感神経系が活性化し、コルチゾールの血中濃度が上昇することが知られています。血中の濃度と唾液中の濃度は相関することが知られており、非侵襲的な採取が可能なことから唾液を材料とした測定が注目を浴びています。また、唾液中sIgAは急性ストレスの指標として有用であるとの報告がなされています。

こうした項目は日内リズムを持つため、解析の際に個人の日内リズムも把握しておき、濃度差やピーク時間を比較する必要もあります。したがって、単回の断面調査だけではなく、継続的な変化を追い解析することが大切です。測定値も個人差があるため平均値を比較する群間差だけではなく上昇率等の割合での解析も有用といわれています。唾液中のコルチゾールは慢性ストレスの指標として有用で、唾液中sIgAは急性ストレスの指標として有用との発表があります。

厚生労働省の統計によれば、精神疾患により医療機関にかかっている患者数は、平成23年で320万人となっており、さらに増加傾向を示しています。その原因として、社会・産業構造の変化による職場でのストレスの増加が考えられ、それに伴って自殺者が年間3万人を超えるなど、精神的ストレスに起因する疾病が社会問題化しています。

これらの検査を測定することにより、これまで「ストレス」や「疲労」といった主観的な判断に頼っていた心身の状態把握を少しでも客観的なマーカーで判断できないか、生体試料中のさまざまな物質の測定を試みる研究が進んでいるなかで、両項目の役割に期待が持たれています。

検査要項


項目コード	03021	07179
検査項目名	唾液中コルチゾール	唾液中sIgA
検体量/保存方法	唾液 0.2mL / 凍結 (-20℃以下) [容器番号：49番]	唾液 0.3mL / 凍結 (-20℃以下) [容器番号：49番]
検査方法	EIA	EIA
基準値	設定せず	設定せず
所要日数	7~21日	不定期
検査実施料	未収載	未収載
備考	*必ず専用検体としてご提出下さい。 唾液の採取手順および採取後の留意事項は3頁をご参照下さい。	

参考文献

厚生労働省：労働安全衛生法に基づくストレス制度実施マニュアル, 2015.
田中喜秀, 脇田慎一：日本薬理学雑誌137(4)：185-188, 2011.

採取容器と採取手順および採取後の留意事項

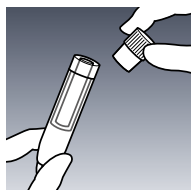
採取容器

容器番号	49	唾液中コルチゾール・sIgA用容器
採取容器		
 <p>採取容器の中には、唾液採取用のスポンジが入っています。</p>		
添加剤	唾液採取用のスポンジ（綿）入り	
保管方法	常温	
有効期間	容器表示	

唾液の採取手順

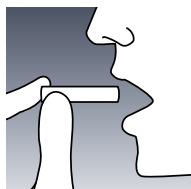
STEP 1

採取容器のキャップを外し、中の円筒スポンジを取り出します。



STEP 2

円筒スポンジを舌下に入れます。スポンジがやや膨らみ、ひたひたになるまで唾液を染み込ませます。個人差はありますが、おおよそ2～3分が目安です。

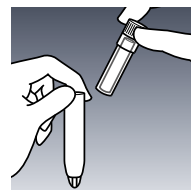


※留意事項

スポンジを誤嚥しないよう、十分注意して唾液を採取して下さい。

STEP 3

十分唾液を染み込ませたら、スポンジを保持具に入れ元の容器に戻します。



STEP 4

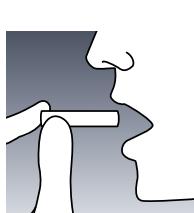
採取容器のキャップをしっかり閉めて、密閉します。

STEP 5

スポンジに含まれた唾液を遠心分離し、凍結でご提出下さい。スポンジは入れてご提出下さい。

唾液採取後の留意事項

採取～保存	保存条件
直後	冷温を保つ（雑菌の繁殖を防ぐため）
30分以内	冷蔵（4℃前後）
4時間以内	凍結（-20℃以下）：6カ月間まで保存可能



遠心

30分以内に冷蔵して下さい。

4時間以内に凍結して下さい。